

学友会 (関西)



1999

Dedicated To International Peace and
International Understanding



YO NE YA MA

15

ロータリー米山奨学生学友会（関西）は関西地区に
居住する米山奨学生OB及び現役奨学生の団体です。

目 次

故 種田憲次先生を偲んで	重光 世洋	P.3
米山月間に因んで	中澤 章好	P.4
緑茶物語 ー秋懇親会紀行ー	陳 禮俊	P.4
国際ロータリー及びライオンズクラブと私	藤岡 寧発	P.6
私のフィンランドの思い出	権 貴玉	P.8
シルクロード	ビラール,イリヤス	P.8
素晴らしき出会い	蔡 秀娟	P.10
'98年度のテーマ『日本での生活の知恵』		
私の日本での生活の知恵	段 煥祥	P.12
私にとっての日本語学習	許 淑芬	P.13
私の日本での生活の知恵	オストハイダ,テーヤ	P.14
禅による生活の知恵に	ルッジェリ,アンナ	P.15
1人暮らしで得たこと	小田村ライアン	P.16
私の日本での生活の知恵	カムシリ,ピンサライ	P.17
会報16号の原稿募集		P.18
'98年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿		P.20
'97年度会計決算報告書		P.21
'98年度会計予算案		P.22
'98年度活動報告		P.23
会員の消息		P.23
相談コーナー		P.23
'98年度会員名簿		P.24
編集後記		P.26



故 種田憲次先生を偲んで

米山学友会（関西）相談役

重光世洋

大阪産業大学工学部教授

本学友会の顧問で、元米山奨学会常務理事であられました種田憲次先生が去る平成11年1月8日午前4時3分、肺炎のため逝去されました。享年80歳、ここに謹んで哀悼の意を表します。告別式は1月10日午前11時より芦屋市南宮町にある妙福寺においてしめやかに営まれました。

先生には米山奨学生学友会（関西）創立当時から今日まで暖かくご指導を頂きました。毎年開催されます学友会の総会および懇親会にはご多忙にもかかわらず毎回ご出席を頂いております。例年のことながら、先生がご挨拶をなされるときには、まず最初の一言には必ずと言ってよいほど「私の名字は種田（タネダ）、種のタネ、田んぼの田と書きますが、これはタネダと音読みするのではなく「オイダ」と呼びます。皆様のごひいきをよろしく願います。」というのが先生の口癖でした。私達学友にとって忘れるに忘れることの

出来ない印象深い先生でありました。

ロータリーとは「他人に対する思いやりと他人のために尽くすこと」であると身をもって示して頂いた先生でもあります。先生が何よりも米山学友会に期待しておられますことは、米山奨学生のとくに会得された「ロータリーの奉仕の心」を継承し、更に発展させるような推進力になって貰いたいことです。

先生のあの温厚なまなざし、高潔にして円満な人柄は、私達にとって偉大な老師であり、また先生の一挙一動から絶えず多くのことが教えられました。

父親として、また、先輩として頼りになるかけがえのないお人であり、長年親しきご指導、お付き合いを頂いたものとして深い悲しみと残念な思いで胸が一杯です。

ここに学友の皆様と共に、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

（元学友会会長）



（スピーチ中の種田氏）



（懇談中の同氏）

在りし日の種田先生（前列右から7人目）





米山月間に因んで

国際ロータリー第2660地区 米山学友会委員長

中澤章好

(大阪住吉ロータリークラブ)

第2660地区米山奨学委員会では、昨年より10月の米山月間におきましてロータリー米山学友会（関西）の皆様にご卓話を依頼しています。各クラブにおいて学友会（関西）の皆様の卓話が好評で人気があり依頼要請も多く嬉しく思っています。しかし大変多いので日程時間を調整するのに苦労しております。また、その時学友会（関西）の皆様が快く引き受けてくださりまして非常に感謝してお礼を申し上げます。

卓話が好評なのは、奨学生時代の苦労話、

異文化、食べ物、自国の話、家族、友人、自分の学んできた事、ロータリークラブ等数々のお話を短時間ではありますが、上手くスピーチして下さるからだと思っています。

年々こういったチャンスを増やしていき、学友会の皆様とロータリアンとの絆が深まり奨学期間だけのお付き合いではなく、何時までも良い関係が続けていきたいと思っています。今後とも学友会（関西）の益々の発展と活躍を期待しております。



緑茶物語

—秋懇親会紀行—

元世話クラブ：京都南ロータリークラブ

陳禮俊（台湾）

京都大学博士課程

去る9月26日に、平成10年度の米山学友会秋懇親会が日本文化の町「宇治」で行われましたが、大勢の会員および家族のご参加を頂いて、非常に有意義な休日をご過ごしました。

今回の秋懇親会は権貴玉さんの提案を中心に、日本の自然、文化および陶芸を体験する機会を設け、従来と一味違うプロジェクトを企画しましたが、時間の制限で宇治の歴史および文化を十分に紹介できなかったため、「美中不足」と実感しています。それ故、この場を借りて、「宇治茶」の歴史を中心に触れながら、懇親会の感想を述べさせていただきます。

1738年湯屋谷の茶農永谷宗円が「青製煎茶法」を考案したことで、茶の大衆化が進んだ、と同時に、「宇治の煎茶」の名は全国に広がっていったことは有名な話であり、それが現在も宇治田原が日本緑茶発祥の地と呼ばれる所以であります。明治維新後は、京都府の管轄下となり、戦後、1956年に田原村と宇治田

原村が合併して現在の宇治田原町が誕生しました。

日本に初めてお茶がもたらされたのは、平安末期のことです。栄西禪師が入宋した際（1187年）お茶の実を入手し、日本に持ち帰ったことから、本格的に喫茶の習慣が広まりました。宋から帰国した栄西は、京都に建仁寺を建てて禅宗を広める一方、「喫茶養生記」という本などを通じて、お茶の徳をたたえ、喫茶の習慣を奨励します。やがてお茶（抹茶）は武士階級、新興町民へと広まり、茶道として大成し、千利休によって芸術にまで高められたことはよく知られている通りです。

栄西は持ち帰ったお茶の実を、承元元年（1207年）特に親交の深かった拇尾の明恵上人に贈ります。上人はこれを高山寺に植えて茶園を造り、そのお茶はさらに諸国へと移植されていくこととなります。宇治・仁和寺・醍醐をはじめ、大和、伊賀、駿河武

蔵の国まで、上人の徳とともにお茶は広まっていったのです。宇治田原の伝承によれば、奥山田茶屋村にある寄代坊の光音という人が、拇尾のお茶の実を、明恵上人の弟子の光賢からもらい受けたということになっています。光音は大福谷のあたりに畠を拓いてお茶の実を植え、さらに湯屋谷湯源寺に住んでいた賢永がこれを田原郷に移したとされています。大福谷は地質・気候ともにお茶の栽培に最適で、お茶の味も優れていたもので、早くから皇室での飲み物となり、鎌倉將軍へも捧げられるようになりました。また足利時代には「大福茶」として「もっとも茶香深し」と賞賛されるほどでした。

栄西が日本に紹介したお茶は緑色の抹茶でした。しかしその後、日本全国に喫茶の習慣が広まったとはいえ、庶民が日常口にするお茶は赤黒く、味も粗末な煎じ茶でした。この文字どおり「赤黒い」煎じ茶を、緑色の煎茶に変えた人物。それが宇治田原郷湯屋谷の茶農、永谷宗円その人です。当時、高級な抹茶栽培は宇治の特定の茶師にしか許されていませんでした。宗円は法に触れずに優れたお茶をつくって、近在の農家を豊かにしようと考えたのでしょう。抹茶の製法を煎じ茶に取り入れることによって、茶色のお茶を美しい緑色に変えただけでなく、香りも味も圧倒的に優れた煎茶をつくり出したのです。これが「青製煎茶」、即ち今に伝わる煎茶の始まりです。ときに元文三年（1738年）、八代將軍吉宗の治世でした。吉宗の時代は国産を奨励して、各地で産業の発達を見ましたが、新芽のみを丁寧に摘み取り蒸して改良した焙炉の上で熱を加えながら、手で揉み上げる製法を、約十五年にわたって研究を積み重ね、現在の煎茶の発明に成功しました。煎じ茶から煎茶へ、茶色から緑色へ。青製煎茶の製造に成功した宗円は勇躍、江戸へと向かいます。

やがて日本橋の茶商・山本喜兵衛を通じて売り出した青製煎茶は爆発的な人気を呼んで、以後山本家の屋号「山本山」の名を江戸中に広めたといえます。

宗円は製法を独り占めにせず、惜しむことなく湯屋谷の人々に伝授しました。そのため宗円の発案した永谷式煎茶は全国に広まり、天保五年（1834年）から安政二年（1855年）までの二十一年間、毎年宮中に献上されるよ

うになります。同時に「宇治の煎茶」は、幕末には全国ブランドにまで発展しました。おりしも嘉永六年（1853年）にペリーが来航し、翌年に開国されると、次第に外国貿易が盛んになり、お茶は生糸に次ぐ主要輸出品となります。そして慶応三年末には神戸が開港し、湯屋谷の青製茶はアメリカ人貿易商の手によって市場を一挙に世界に広げることになりました。

栄西によって日本にもたらされたお茶の実が、明恵上人をへて宇治田原に入り、それが湯屋谷の永谷宗円の手によって青製煎茶へと生まれ変わりました。これが、現在の煎茶の起源です。緑茶の歴史を振り返れば、そのルーツに永谷宗円があり、宇治田原町は日本緑茶のふるさとなのです。

(http://www.wao.or.jp/ujitawara/culture/index_n.html)

今回の秋懇親会はまず宇治田原町の文化センターで、宇治茶の製造過程、関連の文化活動および美味しいお茶の飲み方を学びながら、その場で美味しいお茶と茶菓子を頂きました。そして親交のある永谷園の若社長と久しぶりに会い、「宇治茶」と「台湾茶」の話題を盛り込んで、文化交流の意を深めました。次に永谷園の工場に入り、宇治茶製造の後工程を見学し、丁寧に説明して頂きました。そして何より、見学のクライマックスと言えば、工場の軽トラに乗って、当時宗円が青製煎茶の作法を開発した「茶寮」および日本唯一お茶の神様を祭る神社を見学したことです。歴史および文化の雰囲気が漂っている周りの美しい自然環境は都会に住む現代人にとって、何と言う贅沢な一時でしょう。

その後、権さんが住んでいる村で、「陶芸」、「木工」、「絵画」などの教室を開き、それぞれが体験したい芸術活動に参加し、丁寧な指導を頂き、出来上がったオリジナルの作品は最高の記念品だと思っています。そして子供達は清流の魅力に惹かれ、「ザリガニ釣り」、「泥鰌掬い」など、自然の喜びを存分に楽しみました。

今回の秋懇親会は企画の通り、「日本の自然、文化および芸術を楽しむ」の目標を達成し、大きな反響を呼びましたが、次回の企画を楽しみにしながら、皆様のご参加とご意見を期待しております。



国際ロータリークラブ及びライオンズクラブと私

元世話クラブ：姫路ロータリークラブ

藤岡寧発（ベトナム）

運送倉庫業取締役

元米山奨学生の藤岡と申します。この度、ロータリアン中澤社長のご好意によりまして皆様の前でお話することになりました。深く感謝しております。今日の話は、“ロータリークラブとライオンズクラブと私”と言う題名に致しております。どうぞ与えられた時間内でゆっくりとご静聴くださいませ。

私は昭和47年（1972年）ベトナムのサイゴンより私費留学生として来日し、一年間日本語を習いまして昭和48年に姫路工業大学に入学しました。当時ベトナムは、共産協賛政権との戦いの最中でした。

大学2年生の後期試験が終わろうという時、大学の学生課へ国際ロータリーの米山奨学生の募集要項が来ておりました。その時の募集内容はたいへん厳しいもので、国立大学の大学院在学予定の優秀な学生だけが募集対象でした。姫路工業大学はその時、大学院が開かれておりませんでしたし、公立大学ですから条件的には全然合わなかったのですが、学生課側からは一応申し込んでみて下さいという連絡がありました。

その時はベトナム学生は6人おりました、全員どのみち取れなくてもともとでしたので、申し込みのための書類一式と先生の推薦書を提出し、試験、面接のあと3月に私だけに合格通知がきました。その時は本当に喜びで一杯でした。当時、ベトナムの生活水準が低く、月収千円から2千円の時に奨学金が4万円でしたので、大学の残り2年間は仕送りがなくても充分勉強出来るだろうと思いました。しかしその年にベトナム政権が共産政権に破れ共産国家になってしまいましたので、仕送りもなくなってしまいました。

その年にフランス大使館が無条件で留学生にフランス行きのビザを発行してくれました。ベトナム学生は殆ど東京へ行きましてフランス行きのビザを取得しました。私

ももし奨学金をもらっていなかったらフランスへ行ったであろうと思います。

日本に残って2年間私は奨学金をもらいながら一生懸命勉強しました。スポンサークラブは姫路ロータリークラブで、月1回例会に出席し、生活状況や勉強の進捗状況を5分間報告したりしました。クラブのカウンセラーは名城という酒造りの会社社長で70歳位のご高齢でしたが、大変私を可愛がってくれました。そして赤穂城や岡山城など見学に連れていって下さいました。

私の勉学に対する態度とか性格などによってその次の年にも私の友人2人を米山奨学生として姫路ロータリークラブと姫路南ロータリークラブにお世話して頂きました。

大学4年を終えて大阪へ参りまして大阪大学大学院に入学し、修士課程に進学しました。この年から日本政府の文部省が、毎年九大学に在学する私費留学生の中から10名ほどを選考して国費留学生への切換えを決定してくれました。幸いにも私がベトナム出身ということと米山奨学生になったお蔭で国費留学生に採用してもらうことが出来ました。その当時、月18万円の奨学金を頂きましたので修士課程と博士課程の5年間勉強出来ました。このことを含めて、米山奨学生であったことが幸いしたのだと思います。

この国費留学生に選考される前に、今お世話になっている藤岡運送のお宅で家庭教師をしていました。大学院5年間の間に藤岡運送の仕事をしたり、経営相談をしたりしました。ただ、博士課程に3年間在学している間、研究テーマが非常に難しかったので途中で退学しました。それで藤岡運送の社長に相談した結果、会社にお世話になることになりました。

社長は私のことをよく理解してくれて、ロータリークラブに入会して恩返しをするように勧めて下さいました。藤岡運送に

入社して3年目のとき（昭和59年）31才の時でしたが、社長が友人を通じてロータリークラブ入会を打診してくれました。

しかし、年があまりにも若いのでライオンズクラブに入れて下さいました。大阪南の大阪長堀橋ライオンズクラブに入会し、英語と中国語が出来るので国際青少年育成委員会に所属し、ずっと委員長をしておりました。ライオンズクラブではずっと会員に対して奨学金の大切さを訴え続けておりましたところ、入会3年目にやっと取り上げてくれました。

事業委員会の中に奨学金制度という継続委員会を設けて、米山奨学金制度と全く同じ制度をつくりました。ただ、これは当ライオンズクラブのみの事業ですので対象は大阪大学大学院生だけとしました。この制度は10年間つづき、月額5万～10万に増え、学生も年1名～5名とし合計18名ほどの奨学生に奨学金を贈りました。韓国、台湾、中国、ペルー、ブラジル等の国から来た学生達でした。

私の狙いは我がクラブだけではなく米山奨学金のように全国のライオンズクラブに同調してもらって堅固な奨学金制度を続けることにありましたが、力不足で数クラブだけが追随して下さいました。

我がクラブも結局各奨学生の努力不足というか殆ど帰国しても音信不通などで連絡がなく、会員も落ち込んでしまいました。それで、会長の方針などによって10年目に奨学金制度が廃止されました。

しかし大阪大学の留学生の里親制度と一日なにわ文化体験委員会がありまして、大阪大学、大阪市大、大阪府大の学生達といまでも交流を続けています。

もう一つ我がクラブには青少年交換学生

事業委員会がありまして、2年に1回外国の留学生を受け入れて2ヶ月間ホームステイさせるといった制度です。そしてこの制度を通じて台湾のライオンズクラブの元会長と知り合い、その方の娘さんと結婚しました。

現在長女は7才で甲子園学院小学校の1年生、長男は3才…といった家族構成です。

私はこの米山奨学金制度のお蔭で日本で学び、その後も現在に至る幸せな生活と仕事を得たと感謝しております。

米山奨学生当時は自分の将来について、卒業後はベトナムに帰ってロータリークラブ又はライオンズクラブのような奉仕団体に加わり、ベトナムと日本の交流に努力していきたいと思っていました。

しかし、ベトナム南政府が陥落し、私の兄弟6人はみな難民（ボートピープル）となって国を脱出しましてカナダやアメリカへ行きまして現在そこに永住しています。

私もベトナムへ帰る夢を捨てて日本の国籍を取りました。そして日本社会へ恩返しをしていきたいと思っています。

そして自分の体験を通じて、留学生と交流をもちお世話もしていきたいと思えます。本日皆様にこのようなお話をさせて頂く機会を与えてくださった米山奨学生の関西地区の学友会の清河会長様をはじめ、地区委員長の中澤様に感謝の意を表したいと思えます。

最後に、私の拙い話を最後までご静聴くださった貴ロータリークラブの皆様から御礼を申し上げます。有り難うございました。

（平成10年10月9日大阪梅田東ロータリークラブでの卓話より）



（藤岡ファミリー）



私のフィンランドの思い出

元世話クラブ：京都園部ロータリークラブ

権 貴玉 (韓国)

画家

私が2年住んでいた、北欧のフィンランドの生活と文化を紹介したいと思います。

日本から10時間空を飛ぶと、ふしぎな「ムーミン」の国へ着きます。私が着いた11月は、寒くて・暗い・長い冬が待っていました。-20℃くらいで、朝9時頃明るくなり、午後4時には暗くなるので大変でした。しかし、白夜の夏は、とても素敵な毎日でした。

この国では、室内で暮らす時間が長いので、家具類、室内を照らすライトなど素敵なデザインのものも多く、音楽を聞いたり、本を読む時間も多く持てます。多くの芸術が、生活環境や生活リズムの中から生み出されています。

また、この国で一番感心した事は、社会福祉の充実と文化レベルの高さでした。一

人一人の生活は豊かではありませんが、国が政策的にいろいろ応援しております。例えば、お年寄りに対しては、専門学校ぐらいのレベルの夜間大学が多くあり、第二の人生を、自分で勉強する楽しみが提供されておりました。子供の教育は17才まで無料であったり、低料金でドミンゴやパパロッチェなど一流の音楽、バレエ、美術展などを楽しむチャンスが多くありました。

森と湖に囲まれた美しい大自然の中で、サウナへ入り、音楽を楽しんだり、本を読んだり、生活の中にとけこんだ美術を愛しているフィンランドの人々を見ると、本当の豊かさとしあわせは、物だけで得るのではないような気がするのです。

(平成10年10月8日茨木東ロータリークラブでの卓話より)



シルクロード

元世話クラブ：京都北東ロータリークラブ

ビラル、イリヤス (中国)

立命館大学経済学部講師

今日はシルクロードについてお話いたします。

その前にまず簡単に自己紹介させていただきます。

私はビラル、イリヤスと申します。あのシルクロードで有名な中国新疆維吾爾(シンキョウウイグル)自治区出身です。ウイグル族です。1993年から1995年まで、二年間ロータリー米山奨学生として、京都北東ロータリークラブでお世話になりました。その後、1995年4月から1998年3月まで(財)京都高度技術研究所の研究者として働き、今年の4月から立命館大学経済学部常勤講師になりました。この場をお借り

して皆様のご援助に改めてお礼を申し上げます。

新疆ウイグル自治区を切り離してはシルクロードを語れません。確かに、新疆ウイグル自治区及びウイグルについて日本にも数多くの資料が有ります。だが、それらのほとんどはバイパスを通して日本に入ってきた情報を焼き直したものにすぎない。このような状況では真実どころか、場合によっては完全に間違った情報が入ってきます。例えば、日本の有名テレビチャンネルで“タクラマカン砂漠のタクラマカンという言葉はウイグル語で死の海だそうです”と正々堂々と放送していましたが、実際は

そうでは有りません。このような誤解や誤用はこの他にも沢山ありますが、このような例を一々挙げるよりもここで新疆ウイグル自治区の地理的な位置、歴史及び風俗習慣を簡単に紹介することにします。

シルクロードの発祥地である新疆ウイグル自治区は、80年代から大型油田が相次いで発見され、世界中の注目を再び浴びるようになりました。新疆ウイグル自治区は中国の西北部に当たります。面積はおよそ164万平方キロ、これは中国全領土の6分の1に相当し、日本の5倍弱に当たります。北から南にかけてモンゴル、カザフスタン、パキスタンなどと国境を接し、国境が6000キロにも及びます。四方が名山の山々に囲まれています。あの有名な天山山脈が新疆ウイグル自治区のほぼ中央に横たわっています。その北にはアルタイ山脈、南には崑崙(コンロン)山脈があります。この三つの山脈がジュンガル盆地とタリム盆地と言う二つの大盆地を生み出しています。世界二番目の大砂漠タクラマカン砂漠がタリム盆地に位置しています。この地域の南部は半乾燥地帯で、もちろん年間降水量も日本と比べるとかなり少ないです。そのお陰で長い間放置された文化遺産もところによってほぼ完全な姿で残っています。砂漠が新疆ウイグル自治区のおよそ22パーセントを占めます。

この地区にウイグルをはじめ、漢族、カザフ、回族、キルギス、モンゴル、タタール、ウズベク、タジクなど多民族が住んでおり、政治的には皆平等です。各々の民族が独自の言語、文字および宗教を持っており、各自の生活スタイルで生活しています。冠婚葬祭などの儀式も宗教によって根本的に違っていますが、同じ宗教の中でも細かいしきたりが異なります。例えば、ウイグル、カザフ、キルギス、タタール、ウズベク、タジク、回族などの民族は皆イスラム教徒です。だが、これらの民族の中でも名前、服装、食べ物などの面で多少の違いが表れます。この地区の民族の多くはイスラム教を信仰しています。イスラム教には火

葬が許されない、豚肉および豚肉関連の材料を含んだ食品を口にしてはいけないなどの共通の習慣が硬く守られています。

この地区はシルクロードで大変有名です。シルクロードと言う呼名の名付け親はドイツの地理学者リヒトホーフェンだそうです。彼は自分の著書「中国」の中で初めてシルクロードと言う表現を使いました。当時、リヒトホーフェンは西域(中国では敦煌以西の地域)を通るキャラバン隊商路を指していたそうですが、後にスウェーデンのヘディン、イギリスのスタインらは、この東西の交流が西域のオアシス地域に限らず、さらに西のオアシスを出て、海を越え、ローマに至ったことに着目し、中国の長安(今の西安)とローマを結ぶ交易ルート全体をシルクロードと呼ぶようになりました。いずれにしろ、この地域はかつて東西交流に主要な役割を果たしたに間違いありません。というのは、東西を結んだあのシルクロードのすべてのルートがこの地域を通っていたのです。当時のシルクロードのルートといえば天山北路(天山山脈の北のオアシスを結んだ道)と天山南路(天山山脈の南のオアシスを結んだ道)があり、天山南路がさらに西域北部(天山山脈の南側のふもととタクラマカン砂漠の北側のオアシスを結ぶ道)と西域南路(崑崙山脈の南側のふもととタクラマカン砂漠の南側のオアシスを結ぶ道)に分かれていましたが、そのすべてのルートがこの地域の中にあっただため、この地域は当時大繁栄していました。当時の文化遺産でこの事実を裏付けることができます。

だが、大変残念なことに今世紀のはじめごろ探検家を装ったヘディン、スタインなどらの手によって何十世紀も存続してきた仏教芸術の結晶ともいわれている文化遺産が略奪、破壊されました。この許されない残虐行為の傷跡が今もトルファンなどの郊外で生々しく残っています。

(平成10年10月13日大阪本町ロータリークラブでの卓話より)



素晴らしき出会い

—国際化の中の日本、通訳を通じて—

元世話クラブ：西宮甲子園ロータリークラブ

蔡 秀娟 (台湾)

通訳、翻訳

去年の夏頃から、機会を得て通訳の仕事をして頂いてまいりました。周知の通り、来日する外国人が年々増える一方です。皆それぞれ違う目的を持って日本にやって来たのです。留学や教学に、商務や旅行に様々です。法務省「出入国管理統計年報」によりますと、外国人入国者数は、1996(平成8)年には約425万人となっています。このような国際化に対して、必要に応じて言葉の壁を乗り越えざるを得ないことが常に要求されています。因みに、私も通訳に際して、色々な問題にぶつかってきました。自分自身の実体験から大別して、二つのパターンを得ることができました。(1)は聞いたことのない、見覚えのない言葉、そして、聞き慣れていない、使い慣れていない言葉や使い方で、(2)は国や民族の文化や風俗習慣などに基づいて基本的な考え方の違いによって、言葉に現れた表現です。今まで見たことも聞いたこともないですから、そのような蓄積がその人間の記憶にないのです。勿論そのようなデータの読み出し・取り出しなども不可能だということになります。もう一つの可能性は、人間の記憶力に関係するのです。以前に覚えたはずの言葉が使っていないうちに段々と記憶から遠ざかっていきます。と言うのは、そのような言葉は確かに頭の中にインプットされているはずですが、それを頭の中で検索して見つけ出すのに、つまり、思い出すまでには時間がかかります。このように、聞き慣れていない言葉や使い慣れていない言葉が(1)に当たります。言葉が人間によって、必要に応じて作られたことは確かです。人間が生まれた時から、もう既に生涯言葉と離れられない関係にあることも確かであります。

しかし、時代と共に新しい言葉が生まれ、忘れられていく古い言葉も枚挙に暇がない

ぐらい山ほどあると思います。中国の清の時代に編纂された康熙字典を例にとって見てもお分かりだと思います。康熙字典には47,035字の漢字が収録されております。ところが、文字の使用数量はそんなに必要はありませんから、5万字近くの約八割が現在は殆ど使われていません。よく使われている辞書にも12,500字から13,500字しか収録されておらず、一般日常生活で3,500字さえ覚えればもう十分だといわれています。

又、氏名に就いても、同じことがいえるでしょう。日本では一般に氏名とっていますが、中国では姓名とっています。現在では、氏も姓も家族名・家の名を表すものとして用いられています。中国の歴史文書に表れた姓氏は5,652あったと言われ、その2,000あまりは少数民族からでたものであります。全体の内、単字姓は3,400余り、二字姓は2,000余り、三字姓は100余りであります。現在使用されている漢族姓名はそれらのほぼ半数であります。二字姓は、その内5%、三字姓は殆ど消滅しています。集中度の多い姓は約二、三百しか使われていないと言われています。中国の北京、上海、沈陽、武漢、重慶、成都、広州の大都市の調査によりますと、2,587の姓氏が、台湾では1,694の姓氏が確認されています。これからしますと、未調査の中国の30省、市、自治区の姓氏は1,000以上と推計され、全体として、3,000ほどの姓氏の存在が指摘されています。この3,000ほどの姓氏は、日本の10万ともいわれる姓に比べますと、その数が著しく少ないといえます。

(2)の場合は、まず中国語で「尋短見」と言う言葉を例にとって見ることにします。ある中国のドラマに出たその和訳は、「こんなに近くてお会いできまして光栄です。」どうも「尋」を「尋ねる」、「短」を「(距離的に)短く・近く」、そして「見」を「見るこ

と・会うこと」と解釈したようです。しかし、中国人がこの言葉を一目でみれば誰しも「自殺」として捕らえかねません。即ち、中国語では「尋」は「方法を見つける・探す」の意味もあります。「短」は「将来を考えずに人生をより短く」、そして「見」は「見ること・考えること」と解釈するのです。ここで考え方の違いでとんでもない誤解を招いてしまったらしいです。

又、例えば、AさんがBさんにある内緒話をして、Bさんに絶対誰にも喋らないように約束を求めた時に、Bさんが次の会話をしました。「安心して、僕は今さっきした話を墓場まで持っていくますから」

この場合、中国語の表現として、「墓場」の代わりに「棺桶」、「棺」を使うのが普通なのです。つまり、「安心して、僕は今さっきした話を棺桶まで持っていくますから。」と言う表現になります。

この間、「人を殺す」を中国語でどう言うのかと友人から聞かれました。単純に答えを出しますと、「殺人」(サ ズェン)となるのですが、しかし、彼の聞きたいことはそれだけではないと思いました。確認したところ、「(拳銃で)彼を撃ち殺してしまうかもしれません」が聞きたいそうです。そこで、合わせて2通りの言い方を教えました。一つは、加害者の立場からする言い方です。勿論ここでは、主語が省略されています。順番に中国語/発音/日本語になっています。(可能)会打死人(他)/ (カアヌーン) フェイダースズェン(タァ)/ 人(彼)を撃ち殺してしまうかもしれません。あるいは、(可能)会把人(他)打死。/ (カアヌーン) フェイパースズェン(タァ) ダース/ 人(彼)を撃って死なせるかもしれません。

もう一つの表現の仕方として、被害者の立場からする言い方です。人(他)(可能)会被打死。/ズェン(タァ)(カアヌーン) フェイベイ ダース/ (彼)が撃ち殺されてしまうかもしれません。)ここで使われている“被”と言う言葉ですが、何かをされてしまう時に使うのです。つまり、受身の使い方をします。

ですので、ここで挙げた例のように、日本人の感覚で私に質問したことに、やはり

国や民族それぞれの文化・風俗習慣などの相異から生じた物事に対する基本的な考え方の違いは確かに存在していることは言うまでもありません。そこで、国際社会の場において、より一層円滑なコミュニケーションを図るためには、話し相手同士がお互いに国際理解を深めていく必要があると断っておきたいのです。

今まで、通訳で扱ってきた仕事の中で、一番印象に残ったのは、友人の後藤裕史様がある外国人の方に言った言葉です。私にとってその言葉はなかなか頭から離れていきません。それは、「人間にはレベルなんてないじゃないですか。生まれてきたら皆平等じゃないですか。僕は別に個人的にあなたの人柄について嫌いじゃないです。だけど、やったことが嫌いなんです。」という言葉でした。

私も友人のこの言葉に同感せずにはいられません。確かに人間はこの世に生まれてきて、この地球上で生きている限り、誰しも平等に生きていく権利を持っていると私は思っています。

ここで、例えば、家柄とか学力があったとしても、人のものを取ったり人を傷つけたりすれば、同じ法律で同じ償いをしなければならないという事ではないでしょうか。つまり、平和な暮らしを維持していくためには、やはり皆でルールを作り、そして、それを守っていくことが大切なのです。人間社会ではそれが法律、国際社会ではそれが国際条約等に当たります。地球の温暖化、環境ホルモン問題、オゾン層の破壊、自然生態の破壊など、地球を巡るあらゆる問題が現に取り上げられています。特に、今一番目立つのは、核実験・軍事拡張国に対して国際社会においてルール違反をした者に経済制裁を与えるなどの手段を講じることが余儀なくされるのに就いても同じことが言えるでしょう。別にその国に対し、個人的な好き嫌いで制裁を行うのではなく、地球を守るため、人間の平和な暮らしを守るためです。ついこの間セックス・スキャンダルが発覚したアメリカ大統領クリントンさんに就いても、友人のその言葉が通用するでしょう。正にフロリダ州で引退生活を送る民主党支持者のモーリー・フォーゲル

さんの言葉どおりに“国の運営はうまいけど、自分の人生なると話は別というだけさ”人間は人間、神様ではありません。いろんな感情や欲望を持っているからこそ人間であります。只、国の最高責任者としての立場を忘れてはいけないことを指摘したいだけです。若しも、クリントンさんにメッセージを送るといたしましたら、友人のその言葉を引用して次のように送ってあげます。「人間にはレベルなんてないじゃないですか。生まれてきたら皆平等じゃないですか。僕は別に個人的にあなたの人柄について嫌いじゃないです。だけど、やったことが嫌

いなんです。」

最後になりますが、今日この機会を与えていただいたことに心から深く感謝しております。今後もこのような機会を通じて国際理解、そして、国際交流と国際親善を深めていきたいと思えます。そればかりではなく、同じく地球上の人間の一人として皆様方と力を合わせて、ロータリー米山奨学会たる理念で「友の垣、友の輪」を広げ、世界の平和に貢献していきたいと願って止みません。

(平成10年10月7日茨木ロータリークラブでの卓話より)

’98年度のテーマ『日本での生活の知恵』



私の日本での生活の知恵

元世話クラブ：金沢東ロータリークラブ

段 煥祥 (マレーシア)

大阪大学修士課程

最初に陳麗華さんから寄稿して欲しいと頼まれた時に、“まあ、適当に書けば一部の原稿はすぐできるでしょう”と思いましたが、実際に与えられたテーマを見て考えると、そう簡単には行かないと分かりました。どんなテーマかという点、「私の日本での生活の知恵」であるからです。もともと生活の知恵があまり無い私にとっては、生活の知恵について書けと言われても困るのに、更に日本での生活の知恵と言われると、より一層困ってしまいます。でも、“いいですよ”と約束した以上には書かないわけにも行かないし、脳みそを絞ってがんばって書いてみることにしました。

実は私が二年前までは金沢大学の経済学部に通っていたために、数年間北陸地方の石川県に暮らしていました。卒業後は母国に戻って二年間就職していましたが、文部省の国費留学生に採用され、再び留学の目的で来日し、今は大阪に在住です。

数年間日本に住んだことがあるとは言え、知恵があるとは言えませんので、ただ私個

人の経験から話しましょう。留学生に限らず、すべての外国人にとって初めて日本に来られて一番初めに直面する問題は言語の問題だと思います。日本に住むのなら最低限度の日常会話の日本語が必要であると思えます。では、どんな方法で日本語を速く覚えるかという点、まず毎日の会話は日本語で話すことです。例えば外国人同士でも日本語で会話をします。言葉というのは毎日使っているうちに覚えてしまうものであるからです。それから、解らないことがあったらすぐ誰かに聞くことです。外国人ですから、最初の時点では解らないのは当たり前なので、誰も笑いはしないでしょう。例えば他人に笑われてもその場だけの恥で済むので、聞かないと生涯恥をかくかもしれません。そして、いつも謙虚で他人に自分の間違いを指摘してもらうことも大切です。多分誰でも自分の間違いが一度他人に指摘されたら、印象が深く二度と同じ間違いを繰り返さないでしょう。もう一つは言うまでもなく、普段に良く勉強することです。

日本の各地域で国際交流活動は常に主催されているので、できる限り積極的に参加することも勉強になると思います。特に、ホームステイの活動を通じて日本語の勉強になるだけではなく、日本人の生活習慣も実際に体験できます。更に、自分の国の文化や風習なども理解してもらえる絶好のチャンスでもあり、まさに正真正銘の国際交流そのものであります。普段学校では日本人の生活習慣を学ぶことができないので、そのような国際交流活動で実際に体験し、自分の肌で体験することができます。また、国際交流やホームステイなどの活動を通じて親しくなった日本人のホストファミリーがいましたら、困った時にはすぐ身近に相談に乗ってくれる人がいると心強く感じられます。

また、自分の住んでいる地域の周辺で行われる行事にも参加した方が周りに住んでいる人々との出会いのチャンスも増えてくると思います。例をあげますと、例えば自分自身はクリスチャンでなくてもキリスト教会の集会に参加するのも、日本人と触れ合う良い所であると思います。日本に留学するなら、日本の人々との付き合いを大切にすることは将来の良い思い出にもなります。



私が通っていた日本語学校では、台湾、中国、韓国から来た学生が殆どであった。台湾と中国から来た人は、情報を交換する時にどうしても中国語（普通話）で会話をしてしまう。唯一日本語でしゃべらないといけないのは韓国人しかいない。日本に来たばかりなので、知っている日本人と言えば学校の先生と保証人位だった。初めに、日本語を勉強してから日本に来たわけではないので、しゃべることのできる言葉は限られてくる。また、保証人とは、殆ど会わ

ずし、将来自分が社会に出るときの人脈の確保にもなるでしょう。

外国に暮らすのは自分の実家から通うのと違って、何もかも自分が買わなければなりません。物価が高い日本には、お金の余裕があれば別で、留学生は日常用品を何でも新品で買う必要はないと思います。特に短期間で卒業する留学生にとってなおさらです。卒業して帰国する場合はほとんどの日常生活用品が要らなくなるからです。実はそういう日常生活用品は各地域のリサイクル・センターやリサイクル・ショップ、又はフリーマーケットやバザーで安く手に入れることができます。そのような情報は各地域の国際交流協会かセンター、又は留学生センターのようなところで入手できます。

以上述べたように私が石川県で学部時代の留學生活を充実させ楽しく数年間を金沢市で過ごすことができた体験です。勿論その間には色々な方々にお世話になったことは言うまでもありません。特に金沢のロータリー・クラブの皆様大変お世話になりました。そのお陰で私は充実した楽しい良い思い出をたくさん実らせた留學生活ができました。

私にとっての日本語学習

許 淑芬（台湾）

京都産業大学修士課程

ないので、日本語をしゃべる機会もすくなく、そして、先生としゃべる時間もそれほど多くはない。そのため、日本語は、なかなか上達せず、日本に対する興味が薄れて、精神的にも疲れてくる。

そこで、知っている学校の先生と保証人以外にもっと他の日本人とつき合う必要があると考えた。それは、学校で勉強した日本語を頭の中にばかり詰め込むのではなく、それを口にだして発言し、自分のこと、相手に伝えたいことを表現することによって

日本語が上手になると同時に、相手の言葉も聞き取れるようになる。そうすると、日本人とのコミュニケーションが取れ、日本人の文化、歴史、考え方等も勉強でき、日本に対する興味が増し、留学自体が楽しくなるからである。それで、日本語学校の近所に日本語の専門書を買っている本屋さんがあるのを見つけ、放課後いつも足を伸ばしていた。そのうち、本屋さんで働いている若い女性と友達になった。そのお姉さんは、私の日本語を上達させるため無報酬で私と会話をする時間を作ってくださって、また、時々一緒に食事をしたり町で遊んだりした。

又、もう一つは、私の同年代の知っている日本人がいなかった。同年代の日本人は、普段どんなことを考えているのか知りたかった。しかし、日本語学校にいる限り同年代の日本人と知り合うのは難しいと思われた。そこで、年配の先生にそのことを言って相談したら、先生に「私はあなたと同じ年の孫がいるので、孫を紹介してあげる。」



母国から離れて、外国で長く生活すればするほど、その国の文化、社会生活や風習、またその国の人々の考え方や価値観等を受容するようになる。外国で住み始めた頃に「面白い」や「不思議である」と感じたところが、いつの間にか当然となるにしたがって、自分の母国における文化、習慣や価値観等に対する意識も変わってゆく。このようなプロセスは決して不思議なものではなく、むしろ人間にとって必然的なものである。

だが、日本での長年の生活の間に、私は、日本の文化、社会やコトバ等を極めて特殊なものとして見なす日本人に頻繁に会った。また、同様の先入観を抱く外国人も少なくないことに更に驚いた。マスメディアや教

と言われた。先生のお陰で、先生のお孫さんと手紙のやりとりを始めた。それによって、日本語の文章がすこしずつ書けるようになった。

暫く続くと日本語の勉強は、楽しく感じるようになった。日本で日本人とふれ合うことによって異郷にいる寂しさもだんだん減りホームシックもなくなりつつあった。こういうように2年間日本語の勉強を終えて大学に進学することになった。大学に入学してすぐには、日本人と友達になることができなかった。そこで、ある先生の勧めで、英文タイムズというサークルに参加して、日本人といっぱい会話できるようになった。短い間に自分の日本語はかなり進歩したと気が嬉しかった。

これらのことを通して思ったことは、やはり、日本語が上手になるためには、本で勉強するだけでは足りない。本で吸収したものを実際に使って、実践してみてはじめて自分のものになるということである。

私の日本での生活の知恵

世話クラブ：大阪西南ロータリークラブ

オストハイダ、テーヤ（ドイツ）

大阪大学博士課程

育でさえ強調されているこのような思想の由来を探ると、次の事柄が明かになる。日本の西洋重視思想（外国＝アメリカ合衆国、外国語＝英語）のため、「日本」と「外国」に対する意識が偏っており、未だに「日本人論」的な考え方（我々日本人は独特な民族である…等々）が残存している。このような思想は、少数の欧米人の日本観によって支持されているかも知れないが、164万人以上の在日外国人（特にその中の9割を占める中国、韓国や東南アジア諸国の人々）と日本人との相互理解の観点から見れば、決して好ましいものではないであろう。

私の専門分野「言語学」の見地から考えても同様である。上述の原因のため、日本語を特殊な、また特に難しい言語としてと

らえようとしている日本人は少なくない。だが、ことばは、全ての人間に共通する概念に基づいていることを忘れてはいけない。即ち、国によって言葉が異なるにも拘わらず、ある言語の単語や言い回しは、他の全ての言語でも表現可能である。このように普遍性があるために、我々は外国語を習得することができる。日本語に対する先入観に左右されると、日本語の習得が困難となり、また日本語の背後にある日本の文化や社会を客観的に見ることができなくなる。

私の日本での生活の知恵との関連として、次のことを主張したい。外国で生活するならば、その国と自分の母国の相違を重視するのではなく、むしろ文化、社会、言語や人



私の日本での生活の知恵は禅、すなわち私の研究テーマと関係がある。

初めに坐禅をした時は5年前であった。そのときすでに大学の研究として禅を選んでいった。しかし、まだ坐禅を組んだことがなかった。その時まで、禅についていろいろな本や資料を読んでしたが、実践の体験がなかったので、なんとなく不満を感じていたのである。そして、もう少し深く禅の研究をしようと思ひ、日本へ来た。

その時まで、仏教と禅について読んだ本で、すべての生きているものが、佛性を持っている、つまり全ての人間がそのまま仏であるということが書いてあった。仏教の言葉で言う「衆生本来仏なり…この身即ち仏なり。」と。また、他の本では人間は仏様のように悟りを開くことが必ずできるということも書いていたのである。しかし、読めば読むほど私の疑問は大きくなってきた。一体この悟りというのは何であろうか。実はこのようなことを考えながら、日本へ来たのである。

日本にいる間に私のもっとも大きな目的は坐禅を体験することだったので、四ヶ月経つ

間そのものに共通する普遍性を考慮しなければならない。ここで断っておきたいのは、私は世界の国はどこでも同じということを目指したいわけではない。こういう考え方を持っていたなら、私はわざわざ、他文化を理解するために母国ドイツから日本まで来なかったであろう。だか、国々のそれぞれの文化、社会や人間の考え方の根本は、普遍的な概念に基づいている。表面的に現れる差異は、それらの普遍的概念の異なった現れであるに過ぎない。このような普遍性を確認することは、単に相違点を指摘することより難しいかも知れない。が、他(多)文化の理解の糸口になると私は考えている。

禅による生活の知恵に

世話クラブ：京都伏見ロータリークラブ

ルツジェリ、アンナ (イタリア)

花園大学修士課程

た後やっと京都にある妙心寺の霊雲院という臨済禅のお寺を紹介されてそこで最初の坐禅の入門をさせていただいたのである。

お寺の中の日常生活の作法というものは私にとって新しい世界で非常に魅力のあるものであった。しかし、私は悟りとは何かという思いにしつこく取り付かれていた。そして、一度、大変な勇気をもってお寺の老師様の所へいったのである。「悟りというのは何ですか」と尋ねた。

老師様曰く「悟りは毎日の生活と同じものです。太陽が上がると起きて、顔を洗って服を着て仕事をします。日が沈むと寝ます。これが悟りです。」と。ちょうどその時私の「生活の知恵」は変化した。

西洋では生活が時間と戦っているような捉え方がある。つまり時間の使い方、時間についての考え方は、利益や名誉の追求と深く結びついている。私の場合も、いつも大学試験の準備のためにたりない時間と戦っていたのである。

しかし、その日お寺で新しい時間の感じ方、あるいは見方があるということを見せられた

のである。これは言い換えれば自然な時間、また始めも終わりもない時間、また誕生も死もない時間であるということが初めてわかったのである。

また、ある日作務というお寺の掃除をしていた時に年長の尼様に「葉を拾う時は葉を拾うことだけがある。又、ホウキで掃く時はホウキで掃くことだけがある。これが三昧です。これが禅です。」といわれた。その時も、私の時間についての考え方がもう一回変化した。普通の時間と三昧の時間の大きな違いをなんとなくその時感じたのである。三昧の時間はそれぞれの瞬間それ自体が完全であって何らかの目的が必要なわけではないというような気がした。

このようにして時間の見方が変われば、自分の人生や生活も変わるということを禅の体験を通して、わかってきた気がした。実は禅の基本である坐禅ということは何もせずただ坐ることである。しかし、何もせずただ坐るということだけで利益と名誉が得られるわけではない。もし得ることがあるとすれば、新しい時間、すなわち三

昧の時間の体験であるかもしれない。故に現代人にとっては坐禅すなわちただ坐ることが実際には非常に難しいのである。

最近、外の在家と一緒に専門のお坊様たちに指導されながら大衆禅堂というところで坐禅をしたことがある。頂いた「坐禅手帳」の中には次の言葉が書いてあった。「禅すなわち坐禅はきっとあなた自身の大きな力の支えとなり、生涯の良きパートナーとなり、最善のアドバイザーとなってくれるでしょう。」

現在、私はまだ大学院で禅の研究をしており、お寺で坐禅を組み、そして、普通の生活を続けている。上記の言葉を思いながら私の日本での生活の知恵は、坐禅から学んだ知恵だと言えるように生活をしようと思っている。

- 1、白隠和尚『坐禅和讃』『白隠和尚全集』第六巻、龍吟社、1967年（初版発行1934年）284頁
- 2、『坐禅手帳』臨済宗妙心寺派宗務本所、2頁



1 人暮らしで得たこと

世話クラブ：大阪中央ロータリークラブ

小田村ライアン（カナダ）

関西大学

日本で、どの様な生活ができるかという問題が僕の頭の中からはなかなか消えない。この国の高い通貨で僕は大丈夫かなと悩んでいた。日本の高い円とカナダの低いドルのせいで仕送りをもらうと、向こうの両親に迷惑をかけている感じが重くてイヤだ！僕はプライドが高く、ロータリー米山奨学金をもらいながらまた仕送り下さいと言うのはえらいはずかしい。

やっぱり一人暮らしをしてきた僕は、お金の大切さを早く理解できた。人間は、ひまだったら必ず何をしようかどこかへ行こうかと思うのは当然。その問題を解決するため僕は忙しい体育会アイスホッケー部に入学と同時に入部した。一週間、夜に3回

晩練があったら、昼に学校へ行って夜に練習してあんまりお金を使う機会がない。

僕は食べる量が多い方だと思う。体のためにエネルギーと力が出るように栄養が十分とれる食生活をしている。僕はけっして高級料理ばかりを食べていないけど、毎日、野菜や豆、豆腐など、そして米や魚、鳥、豚肉などを買うのも結構お金がかかる。それで僕は他の所でもっとお金を大切にする。

他の所でお金を大切にすると言ったらやっぱり交通費だ。ちょっとでも移動したら知らないうちに付けが回ってくるので僕はそれぞれの電車線のどっちが高いか安いのか、そこまで行くのに乗りかえが必要であるかを考える。あるときに一駅前に降りて少し

の距離を歩くこつを使っている。僕はスポーツマンなので自転車にはっきり言ってアホなほど乗ってる。例：携帯電話を買った時、家（十三）から値段の安い日本橋へもちろん自転車で行った。

買物する時に、どこのスーパーで何が安いか、何曜日に行ったらこれとこれが安いか、よく知っている。とにかく自転車に乗って近所のスーパーをがんばって回りながら、安いスーパーさがすなんてめちゃめちゃ面倒くさいなと思ったが、まじめにする



初めて来日した時、日本では物価が高いので、なるべくタイからものを買って持って行こうと思い、スーツケースの中に食べ物や服などをたくさん詰めこみました。だから、出発の時、スーツケースの重量は60キロにも及びました。

しかし、日本で生活してみると段々物が分かってきて、実際は生活費はそんなにかからないと思いました。日本の交通費、電気代、ガス代、電話代は高いですが、交通費は学生の場合、電車の定期券を作り、国際電話の場合、深夜か早朝にかけたら、お金を節約できます。私はよく本を買いますが、新しい本以外、ほとんど古本屋で買うようにしています。また、以前ビデオ・CDはレンタルショップで借りましたが、今は図書館から無料で借ります。更に、食料や服などの買い物に気を付けたら、お金の無駄使いを避けることができます。私は100円の店をよく利用し、お菓子や雑貨などをそこで買います。

日本と比べたら、タイでは物価がずっと安いので、タイにいた時、よく外食をしましたが、来日してから自炊生活をしなければなりません。初めの年には、持ってきたタイの食料を使って、タイの簡単な料理しか作りませんでした。しかし段々日本語に

と意外とゲームの感覚を持って楽しくなった。

僕はけっしてけちだと思わない。お金があまるほどあったらバンバン遊ぶつもりだけど、一人暮らしをすると家賃、電気代、水道代、健康保険、携帯電話代そして食費を払うとあまっているお金が少ないだけ。僕の人生はまずしくないけど気を使う時に気を使う。その時は月間収支が黒字だったらうれしい。日本での生活は大変きびしい道である。だから僕の知恵は節約、節約、節約！

私の日本での生活の知恵

世話クラブ：茨木西ロータリークラブ

カムシリ、ピンサライ（タイ）

梅花女子大学博士課程

なれ、テレビ番組を見るようになり、その中でいろいろな料理の作り方が紹介されています。私はそこから日本の料理の作り方を学びました。

また、去年まで同じ寮の一人の日本人の友だちとよく晩御飯を一緒に食べたので、時々お互いに料理法も話し合いました。段々私は彼女から日本の料理について教わりました。日本の料理の主な調味料はしょうゆ、酒、酢があり、これを上手に組み合わせたら、様々な料理ができるということも、彼女に教わりました。なるほど！これはタイの料理と違う。タイ料理に欠かせない調味料には、にんにく、ナムプラー（魚と塩でできたソース）唐辛子があります。このような小さいことでも、意識するようになった私は、うれしく思いました。

タイでめったに料理について興味を持っていなかった私は、このように日本の料理について学び、煮物、おでん、お好み焼きなどの日本の料理を作ることを楽しんでいきます。帰国して、機会があれば、タイの人に日本の料理を紹介したいと思います。

次に、服のことですが、タイは暑い国で、夏の服が主に作られているので、冬に応用できる服がなかなかありません。タイから持ってきた、コート、セーターの素材は薄

すぎたり、また厚いものはとても重くて動きにくかったのです。だから、日本で新しい冬の服を買わなければなりません。しかし、冬の服の選び方が分かったら、手頃な値段でおしゃれで、体を温める良い素材の服を買うことができます。

外国に住むことは初めの頃大変ですが、だんだん慣れて、ものが分かってきたら、いろいろ発見して意外に面白く思います。私はよく『はなまるマーケット』やNHKの『ためしてがってん』や『35生活ホット』の番組を見て、日本での生活の知恵を身につけました。例えば、牛蒡の料理方、冬の服の選び方、布団の簡単な掃除仕方、また、夏ばて・風邪・肩こりの対策などなど…

これらの番組から日本での日常生活に必要な知識を得ると同時に、日本の歴史、文化、についてもより知ることができました。例えば、大阪で初めて風邪薬が売られたの

は、うどん屋さんだったということなど…もともと漢方薬は風邪薬として売られたので、うどんを食べてから漢方薬を飲んで、寝ると、すぐ風邪が治ると言った人がいて、そこで風邪薬はうどん屋さんで売られていたわけです。このようなことは、テキストや授業から学べないことなので、なかなか面白いと思います。

外国での生活の知恵を身につけたら、よりその国で充実に楽しく生活できます。また、その身につけたことは、日本の料理などについて知ることは、私にとって、異文化の勉強にもなり、同時に母国の文化も再認識することにもつながります。留学生たちにとって、これから国際人として、どここの生活にも順応できるように、国際人の感覚を養うには、その国の生活の知恵を身につけることは大切だと思わなければなりません。

'99年度学友会会報16号の原稿募集

●テーマ：「私の最も好きな日本の映画」或いは「私の最も好きな日本のテレビドラマ」

字数：1,000～1,600字。写真、フロッピーディスク添付。

締切：1999年11月30日

送付先：〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7 清河雅孝

TEL：075-594-2029 FAX：075-594-5249

投稿者には、図書券をさし上げます。皆様の素晴らしいエッセイをお待ち申し上げます。



98年度の米山学友会（関西）総会にて



98年 秋の懇親会、京都宇治茶工場にて



同上の 秋の懇親会にて

1998年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

1998年6月14日現在

会 長	清河雅孝 京都産業大学法学部教授 〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[京都東R.C.] ☎：075-594-2029 (H) FAX：075-594-5249 (H)
幹事長	梁 官洙 大阪経済法科大学研究員・講師 〒544-0032 大阪市生野区中川西1-19-1	[大阪住之江R.C.] ☎・FAX：06-6741-5065 (H)
副会長		
D-2650	文 楚雄 立命館大学産業社会学部助教授 〒604-8443 京都市中京区西ノ京島ノ内町21番地 ネオコーポラス島ノ内B-814	[京都西北R.C.] ☎：075-823-2663 (H)
D-2660	顧 海松 松下電工(株) 〒456-5565 大阪府吹田市藤白台1-1-30-203	[大阪東R.C.] ☎・FAX：06-6831-8005
D-2680	王 充志 明光証券 〒659-0033 芦屋市高浜町2-1-411	[西宮甲子園R.C.] ☎：0797-22-8405 (H)
相談役	重光世洋 大阪産業大学工学部教授 〒630-8054 奈良市七条西1-11-19	[大阪R.C.] ☎：0742-44-5004(H) 0720-75-3001 Ex3711(O)
顧問	林 錫璋 桃山学院大学経済学部教授 〒593-8327 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R.C.] ☎・FAX：0722-62-4633
会計監査	莊園福松 税理士 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4コーポ野村梅田A216	[神戸R.C.] ☎：06-6375-1070 (H)
学術	呉 賢龍 甲子園大学経営情報学部助教授 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R.C.] ☎：06-6301-3358 FAX：06-6300-5271
庶務	林 文彬 大阪職業能力開発短期大学講師 〒596-0035 岸和田市春木泉町3-7-302	[京都東R.C.] ☎：0724-36-1528 (H)
書記	ピラール・イリヤス 立命館大学経済学部講師 〒606-8874 京都市壬生天ヶ池40番地MN S 天ヶ池204	[京都北R.C.] ☎：075-802-0667 (H)
会計	張 鑫隆 京都大学大学院博士課程 〒606-8202 京都市左京区田中大堰町88-5	[高槻R.C.] ☎・FAX：075-724-4869 (H)
会計	陳 禮俊 京都大学大学院博士課程 〒606-8122 京都市左京区一乗寺東閉川原町19 リライブ修学院204号室	[京都南R.C.] ☎・FAX：075-721-8909 (H)
親睦	莊 発盛 大阪大学大学院修士課程 〒560-0043 豊中市待兼山町1-18-B423	[京都山城R.C.] ☎：06-6858-3675
親睦	權 貴玉 アトリエ四季 〒601-1394 宇治市池尾南組31-2	[園部R.C.] ☎：0774-20-4587 (H) FAX：0774-23-8471
国際交流	豊田秋雄 豊田園科 〒565-0061 吹田市円山町15番28号	[大阪西南R.C.] ☎：06-6330-3555 (H)
会報編集	陳 麗華 大阪産業大学教養学部講師 〒555-0001 大阪市西淀川区佃5-12-5-905	[奈良R.C.] ☎・FAX：06-6477-2832 (H)

米山奨学生学友会（関西）
1997年度会計収支決算報告書

自1997年4月1日
至1998年3月31日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度の総会予備金	491,851	*前年度の繰越金のなかには、前年度未納の会報印刷費および総会支出の準備金が入っております。 *会費 @2,000円×37名
総会の参加費	368,000	
通常会費	74,000	
秋懇親会補助金	139,000	
寄付金	89,000	
米山奨学会補助金	430,000	
援助交付金	200,000	
利息	1,336	
合計	1,793,187	

支出の部		
科目	金額	備考
総会費用	480,000	*交流会費には、役員会議や秋懇親会などの支出が入っております。 *繰越金には、97年度末未払金の会報送料などが入っており、それ以外は、来年度の総会準備金として繰り越します。 *97年度総会支出¥480,000で、参加費収入の¥368,000を控除し、約10万円以上の総会準備金を用意しなければ、総会の費用を払えない恐れがあります。
交流会費	466,714	
通信費	167,079	
交通費	30,800	
事務用品費	2,278	
会報編集・印刷費	490,091	
手数料	1,837	
未支払金	55,440	
総会準備金	98,948	
次年度への繰越金	0	
合計	1,793,187	

次期繰越剰余金は上記の通り保管されています。以上御報告申し上げます。

1998年6月14日

会計 張 鑫隆

【会計監査報告】

会計監査の結果、収支決算報告書は適性と認めます。

1998年6月14日

会計監査

莊園福松

押印

米山奨学生学友会（関西）
1998年度会計予算案

自1998年4月1日
至1999年3月31日

収入の部		
科目	金額	備考
繰越金	0	* 本年度総会開催のために予算を使い切れずに総会の準備金として今年度に繰越致します。 * 会費 @2,000円×50名 * 奨学会からの補助金：20万円＋活動補助金（@人 5,000円）
総会準備金	55,400	
未支払金	98,948	
総会参加費	300,000	
会費	100,000	
秋懇親会参加金	100,000	
米山奨学会補助金	450,000	
援助交付金	400,000	
合計	1,504,388	

支出の部		
科目	金額	備考
総会費用	500,000	* 交流会費には、役員会議や秋懇親会などの支出が入っております。 * 来年度総会開催のために予算を使い切れずに総会の準備金として今年度に繰越致します。
交流会費	500,000	
通信費	100,000	
交通費	50,000	
事務用品費	5,000	
会報編集・印刷費	250,000	
総会準備金	99,388	
合計	1,504,388	

以上御報告申し上げます。

1998年6月14日

会計 張 鑫隆

米山奨学生学友会（関西）

1998年度活動報告

1. 主な行事

A. '98年度総会及び新規奨学生歓迎会（見P.19）

日 時：1998年6月14日（日）

場 所：錦城閣（大阪市）

参加人員：ロータリアン 31名

OB会員 25名

新規・継続奨学生 33名

内 容：'97年度の各報告、役員紹介、
新規奨学生歓迎会、懇親会

B. 学友会秋の懇親会（見P.19）

日 時：1998年9月26日（土）

テーマと場所：お茶の旅と芸術村での
創作
宇治市

参加人数：ロータリアン 1名

OB会員 20名

OB会員家族 25名

2. 役員会

A. 第1回、'98年4月12日（日）

京都国際交流会館にて

内容：新役員紹介、6月に開く総会の
役割分担及び会報14号をOBに分
配

B. 第2回、'98年7月11日（土）

ガーデンズ天ヶ瀬（宇治市）にて

内容：秋の学友懇親会の計画立てと役割
分担

C. 第3回、'98年10月18日（日）、

カフェテリアインピス（京都市）にて

内容：会報15号の編集方針と予定につい
て

会 員 の 消 息

- 李 惠儀氏に平成10年1月5日長男のご誕生
- 張 敏氏に平成10年4月11日長女のご誕生
- 張 鑫隆氏に平成10年11月9日長女のご誕生
- チャンドララール、ディリーブ氏（スリランカ）は平成10年4月1日に沖縄大学助教授の就任
- 張 暁輝氏は（株）綜企画設計 設計部に転職
- 王 喜宏氏は富士電機（株）システム事業本部SIセンターに勤務
- 張 英氏は東京三菱銀行上海支店に勤務
- 陳 禮俊氏は平成11年4月1日に山口大学経済学部専任講師の就任

皆さん、どうもおめでとうございます。

相 談 コ ー ナ ー

学友会は留学生のために相談コーナーを設けました。さしあたり、次のような分野と担当者を決めました。ご利用ください。

法律関係：清河雅孝 〒607-8418 京都市山科区御陵牛尾町72-7 TEL：075-594-2029

FAX：075-594-5249

税理関係：莊園福松 〒530-0014 大阪市北区鶴野町4 TEL：06-6375-1070

コーポ野村梅田A-216

マーケティング関係：吳賢龍 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北一丁目6-20 TEL：06-6308-4070

FAX：06-6300-5271

1998年度米山奨学生学友会関西地区会員

1998年12月現在

奨学生の番号順で次の通り

重光 世洋	00066	張 哲 珉	02550	劉 兵	04636	陳 宏 立	05512
中山 勝富	00168	陳 麗 華	02739	王 王 華	04663	河 準 洪	05513
上條 勝常	00170	林 琇 春	02747	羊 亜 平	04685	姜 明 子	05517
林 錫 璋	00204	南 相 錦	02763	張 敏 敏	04697	金 政 旭	05519
香島 明雄	00235	梁 官 洙	02788	中 島 毅	04702	李 勁 松	05604
郭 顯 榮	00372	姜 兌 欣	02791	王 海 毅	04702	許 点 淑	05610
郭許 瑶琴	00465	朴 鍾 祐	02793	顧 海 松	04706	林 紅 紅	05676
徳山 卓也	00497	王 充 志	02796	于 水 水	04712	李 晶 煜	05690
清河 雅孝	00577	呉 淑 芬	02798	劉 莉 莉	04713	劉 春 江	05691
林 茂 宏	00584	藤森 信一	02987	吳 佳 漣	04898	馬 石 平	05692
豊田 秋雄	00590	蕭 麗 幸	03022	崔 賢 淑	04969	嚴 偉 琪	05697
林 宏 作	00596	蔡 錦 玲	03054	文 相 喆	04989	蔡 日 強	05698
東 正 伯	00651	蔡 秀 娟	03059	孫 寶 徵	04992	吳 強 平	05699
西原 正雄	00721	柳 政 和	03367	李 文 英	05005	徐 平 新	05703
藤岡 寧発	00729	王 石 明	03399	柳 成 林	05013	史 惠 新	05705
宮崎 ちな(幸珍)	00734	全 玟 樂	03401	曹 美 庚	05014	王 柏 森	05708
陳 玉 熊	00926	王 冬 兰	03507	李 惠 儀	05017	金 衝 坤	05876
魏 栢 良	00972	李 東 東	03510	張 昌 聖	05022	蔡 妃 甯	06051
莊園 福松	00975	辜 秀 秀	03724	包 四 林	05074	秋 香 美	06054
黄 光 前	01109	林 妙 音	03727	崔 銀 珠	05097	傅 俊 豪	06056
大田 一博	01122	林 云 鉉	03728	李 振 宝	05098	黄 愛 玲	06057
南 俊 彦	01135	朴 三 用	03750	孫 國 強	05099	金 炯 洙	06058
武田 維明	01140	金 寶 英	03752	張 瑋 紅	05104	賴 愛 華	06060
張 璧 東	01266	黄 曉 芬	03840	張 建 明	05105	李 美 淑	06061
鍾 雲 海	01279	楊 克 儉	03841	周 生 生	05172	林 大 凱	06063
吳 賢 龍	01409	崔 洽 洽	04056	鄭 霞 清	05173	文 成 權	06064
廖 登 稔	01440	呉 賜 金	04070	伊力 亞司比拉勒	05174	孫 好 實	06068
羅 成 純	01467	徐 貴 淑	04186	郑 甘 澍	05179	崔 孝 先	06073
李 惠 玲	01538	葉 新 華	04211	胡 新 成	05181	金 英 蘭	06078
文 燕 友	01549	馬 燕 燕	04214	張 曉 輝	05183	張 鑫 隆	06087
石田 光雄	01588	文 楚 雄	04215	蘇 燕 燕	05187	黄 永 融	06089
車 季 南	01700	龐 孟 炘	04417	陳 俊 俊	05467	金 伯 姬	06090
黄 晨 昌	01704	張 瓊 文	04487	謝 意 如	05469	朴 在 鉉	06098
劉 明 治	01709	金 淑 姬	04495	黄 俊 卿	05471	柳 秀 林	06101
呉 俊 雄	01739	朴 信 貞	04503	黄 毅 傑	05473	張 秀 寶	06102
竹田 淑恵	01752	葉 淑 節	04508	金 肅 肅	05475	鄭 仁 順	06104
尚 昇	01893	徐 漢 兢	04531	劉 美 貞	05479	鄭 逸 教	06105
早川 由美	02077	金 芝 均	04532	辛 有 美	05483	許 恩 娥	06108
長田 高明	02089	黄 愛 玲	04544	康 蓄 薇	05487	李 純 止	06111
辛 嘉 靖	02260	李 楚 倫	04547	金 龍 洙	05490	李 載 載	06112
高樹 亮一	02467	柳 美 成	04550	張 起 權	05496	王 王 薇	06226
權 貴 玉	02475	徐 源 亨	04554	左 容 昊	05498	徐 向 鶯	06285
唐沢 宗良	02498	林 文 彬	04629	呉 玆 定	05504	向 上 華	06299
竜 嘉 哲	02520	金 玉 善	04634	柳 正 鐸	05510	張 震 華	06313

陳惠君	06314	陳	翀	06351	李秀昊	06729	林信州	06859
紀群	06315	樂	萌	06359	沈美姬	06734	李沅貞	06862
建勛	06317	金康	石	06682	申惠淨	06735	朱偉中	06895
黃來芳	06318	金敬	善	06683	宋誠恩	06737	姚水良	06916
劉青	06320	張智	峯	06698	安時亨	06739	秦	06920
劉新	06321	趙一	娟	06699	趙永載	06741	江	06947
盧	06322	陳欣	宜	06700	崔英信	06743	陳力	06960
沈	06324	陳佩	琪	06701	李昌權	06747	高	06961
宿	06325	陳意	貞	06703	梁昌在	06749	趙英	06965
俞	06326	莊	盛	06704	林煒煌	06750	陳	06966
仲	06333	黃蜀	靜	06708	朴正雄	06755	金敬	06969
張真	06334	金度	勳	06709	全美星	06758	閔	06970
陳婉	06335	金弘	己	06711	李美美	06759	江	06972
蔣青	06336	李周	妍	06712	王全祿	06765	朱列	06973
古虹	06337	林盈	均	06717	顏銘緒	06766	劉必	06974
李	06338	龍淑	瑩	06718	黃國	06769	宋	06976
李	06341	吳紫	雯	06720	李健	06782	湯	06977
周	06345	潘振	興	06722	詹凱	06830	鐘	06978
劉	06348	葉俊	輝	06722	朱秋	06855	洪	06978
孫	06349	安泰	淳	06726	黃玉	06856	劉	07004
陶	06350	程	禎	06727	李	06858	張航	07005

パハードル, サルダール・カール	01258	ビック, シティワンノー	04967
フィーノ, ジュゼッペ	01274	カリム, S. M. アブドゥル	05430
ベリーニ, リノ	01308	トン・オン	05695
モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	ティン・エイ・エイ・コ	05707
ウエルク, テコラ	03383	キャチペアラッチ, カリヤーニ・W.	06109
ザヤニ, モハメッド・ヘディ	03400	ライン, エイ・ティン	06347
ブラダン, ジャヤ・ラム	03405	リジャル, ホム・パハドゥル	06522
リム・チン・チョウ	03749	ガーンズ, バルト	06705
シュレスタ, ディネス・ブラサド	03754	ハサブラブ, ハミッド・モハメッド・A	06706
チチョン, クンティー	04093	タパナンクン, ポントーン	06724
サコ, ウスビ	04504	ボストン, ルイ・ヘンリ・クワミ	06740
ウォーターズ, カレン・ジュリア	04507	エルバラディ, マナール・モハメド	06744
パナンウェラー, ニャーナランカーラ	04523	マルティヌス, アデ・ミザンティ	06752
マイディン, シャフル・ハミード・ビン	04805	オストハイダ, テーヤ	06754
コンセプトン, アーネル・ペリゴン	04931	ポダルコ, ピョートル・E	06756

編 集 後 記

この会報は2年前から毎年テーマを設けて、OB及び現役の奨学生からご自身の体験や考え方でまとめた文章を皆さんに披露することにしております。役に立ちそうな、或いは同感だと思ふような文章は実に沢山いただきました。年1回だけの会報の場を借りて、学友たちのコミュニケーションができれば、初めて会報を作る意味が生じると思ふます。

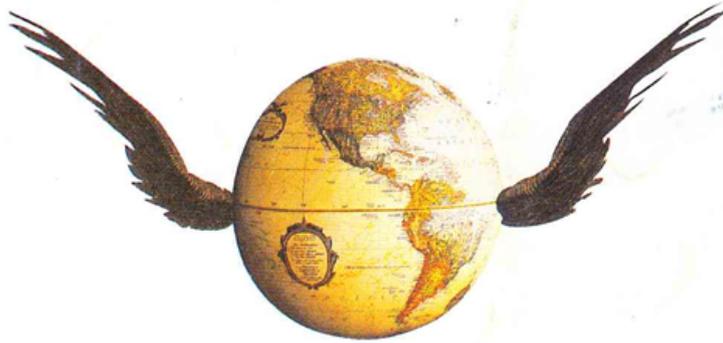
奨学金をいただいている奨学生(準会員)もやがて終了されて、当学友会の正会員となり(ただし、帰国される者或いは関西地区から離れる者は現地の学友会メンバーとなります)、毎年の活動(見P.23)を積極的に参加していただきたいとお待ちしております。

添付の返信用はがきは正会員の消息を集めるためのものであり、どしどしご利用下さい。

編集代表
陳 麗華

編集委員

清河雅孝
文 楚雄
陳 禮俊
莊 發盛
王 充志
權 貴玉
吳 賢龍
陳 麗華



ROTARY
YONEYAMA
SCHOLARSHIP
ALUMNI
ASSOCIATION